

ひき★セン通信

題字：トカゲ

ひきセン通信は新潟市ひきこもり相談支援センターが利用者さんの声で作っていく定期刊行物です。ひきセンBlogともども、みなさまの温かい応援をよろしく願っています。

(ひきセンBlog URL <http://n-hikikomori.blogspot.jp/>)

もくじ

- 1 これまでの人生を振り返って アルバイト先での出来事/X4000SEED
- 2 ひきセン川柳、整いました。其の二。
夏は鬼門/御手元龍馬
コミュニティカフェごっちゃん



イラスト：武居

これまでの人生を振り返って アルバイト先での出来事

X4000SEED

私は中学時代から、どうも内向的で無口で人付き合いがとて苦手な人間でした。今でこそ他人と話せるようにはなったのですが、小学校の自分は同級生とでもまともに会話できないくらいで、緊張しっぱなしの人間でした。それから見れば今の自分は自分なりに自己主張するようになった、意見を言うようになった人間だと思います。

考え方の変化としては高校時代の頃で、物事に白黒を付け、ハッキリとさせることをかなり意識するようになりました。友人から行きたくもない映画のチケットをもらっても、行かなければそれはそれで相手の迷惑になったりする可能性もあることを考慮して、はっきりと『要りません。』と断るようになっていました。この友人はかなり気の強い女性だったのですが、その人も私のほうが強固に拒絶するのをみて諦めたみたいでした。

そう言いつつも、優柔不断な発言もしていました。矛盾ですが、そのため個人的に嫌な思い出もあります。某職場でアルバイトをしていたのですが、どうもその直属の女性の上司とそりが合わず、苦労しました。その上司は他のアルバイトさんとは冗談を言ったりしてましたが、私にはどうもドライに接していていかにも私が苦手って感じでした。

もともと就労契約期間は3ヶ月だったのですが、それを優柔不断な姿勢で2年半に延長していました。本来は3ヶ月という短期のアルバイトのはずなのになぜこうなったのか。それは女上司が3カ月おきの更新時に『X4000SEEDさん。もう辞める？ 辞めない？』みたいな曖昧で優柔不断な聞き方をして私自身も『上司様のご指導に従います』みたいに優柔不断で曖昧な受け答えをお互いに繰り返してきた結果、このような長期アルバイトになったということです。別に私はなんら強要した覚えも脅迫したこともなく、ただ上司が適切な判断を下すのを待っていたのですが。

しかし、当然といったら変ですが、女上司の方はいかにも辞めて欲しいといった感じの口調でした。そんなに辞めさせたかったら『明日にでも印鑑と書類にサインして契約はね、終わりにします。』とはっきり言えばいいのと思っていたのですがなぜか言わない。この某アルバイト先は自己申告制の退職システムで、自発的に退職申請をしなければアルバイトを辞めるさせることはできないのだろうかという疑問に思いました。でもそんな企業は日本中探してもないでしょう。一般的に考えて。

確かに私も利己主義にバイトで稼ぎたいから更新継続の綱を持ちたかった気持ちはあり、私自身悪かった部分もあります。でも現実、実際に職務に当たらせてもらいましたが、そんなに私がダメで嫌ならなぜ、はっきりと上司なんだから契約更新の停止つまり『解雇』を言い渡す権限が上司にあるのに、なぜ曖昧で契約更新を匂わせておいてそれでいて私の口から『辞める』という言葉聞くまで辞めさせなかったのか。不思議です。いい年した大人が嫌な人と話すのが嫌で面倒だから契約更新でもまあいいかなんて。私にも非はありましたが上司の職務で契約の継続の判断は可能だったはずで。

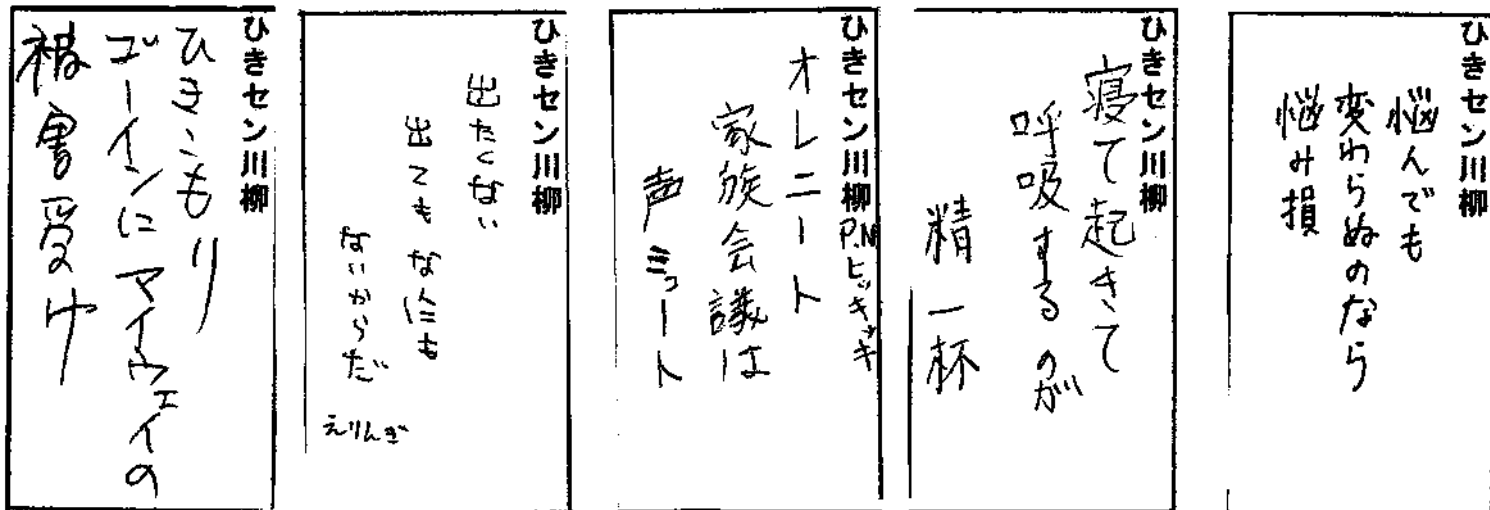
最後に決定的だったのは最終の更新月の電話でした。
『X4000SEEDさん。もうこれで終わりにするのどうするの？』
『できればお願いしたいのですが。よろしく願います。』

『あ”””あああああああああ——————』

と本音のゲロ吐き声が電話の終了タイミングに聞こえ、この人とはもう無理だと、適当で僕が嫌いなんだとはっきりしました。

これを読んでいるあなたも嫌いな上司にあわなければいいのですが……。祈

ひきセン川柳、整いました。其の二。



夏は鬼門

御手元龍馬

家にはなく部屋にこもっていた僕にとって、夏は鬼門でした。クーラーは居間にしかなく、家族と顔を合わせるのも嫌だったので、うだるような暑さの中、僕は汗をボタボタと垂らしながら部屋でパソコンをいじっていました。保冷剤とパソコンだけがお友だちでした。家族が出払うと居間に行ってクーラーのお世話になりながら高校野球を眺め、玄関で物音がすると新しい保冷剤を持って部屋に戻りました。よく我慢し続けていたものだと思います。

暑さを選んだ理由は、干渉されるのが嫌だったからです。ろくに食事も摂らず、睡眠時間もデタラメで、もちろん仕事なんか探しておらず、シャワーは3日に1回は浴びていましたが、自分でも分かるくらいに臭かったりしたものですから、家族から責められる材料が多すぎだと自認していたことが理由でした。

分かっているよ、うるさいな、放っておいてよ。何を言われても、そのように心の中で呟いていました。正論を振りかざされるのだけは許していただきかった。反論できない指摘は凶器です。

分かっています、静かにしてください、どうか放っておいてください、お願いします。

自分の気持ちを、僕は自分で整理できました。でも整理しようと思ったきっかけは環境の変化でした。

家族がひきセンに連絡をして、職員を名乗る人が月に1回部屋にやって来て——来るたびにジリジリと距離を縮めてくるんですね、お天気の話をやわらかい声で一人で行ながら。僕は完全に黙殺してましたけど、それでも毎月、職員が来る頃になると、向き合うことを考えざるをえないというか。加えてわざとらしくらいに家族から僕への言葉や態度も変わっていました。風向きが変わってきたなという漠然とした認識がありました。

愛用していたノートパソコンが暑さにやられて壊れたのは、訪問が始まってちょうど1年が過ぎた頃でした。パソコンのないひきこもり生活なんて絶対無理だと同時に思いました。こもった原因だとか、社会的なステータスをどう受け止めるかについては、整理がついていたのだと思います。

もし本当に(パソコンを買うために)収入を得ることが必要であるならば、そうするべきだと考えることができました。余談ですが、この時を最後に僕は「～すべき」という考え方をしていません。覚悟だったのでしょう。

小遣いで身なりを整えて、家族が出払っている時を見計らって、ひきセンに電話をし、面談の日時を決めました。当然驚かれました。「突然本人から連絡が来て急に言うって言われて、こりゃあ文句でも言いに来るんじゃないかと思った」と職員の方は笑いながら、そのときの話をしてくれました。

言わなくても分かることだったら、言わなければいいと僕は思います。でも「言われたって伝わらないこと」や「言わないと伝わらないこと」の方が、僕の周りにはずっと多いようです。向き合える相手や社会の数をほどほどに制限しながら、穏やかに暮らしていきたい僕でした。

アブラゼミがなく頃に、あの夏の日々を思い出します。

毎週金曜日、ひきセンはコミュニティカフェごっちゃんからお弁当を注文してみんなで食べています。お弁当はひとつ500円で配達もしてくれるのでとても助かっています。

ごっちゃんさんは、2009年にニート、ひきこもり者の就労体験と居場所機能を持つカフェとして開始され、2012年3月からは障がい者支援のための制度である地域活動支援センターⅢ型として再スタートをしました。(ごっちゃんブログより)

ひきセンの利用を経て、ごっちゃんでも活躍をされている方もいらっしゃいます。本町通をお通りの際はぜひお立ち寄りください。木を基調とした落ち着いた店内は、きつとくつろげることでしょう。(武居)

コミュニティカフェ ごっちゃん
ランチタイム 11:30~14:30
定休日 土・日・祝
新潟市中央区本町通2-191
TEL/FAX 025-378-3184
mail wataru79515@yahoo.co.jp
blog http://torihiru.exblog.jp/i4/

